

平成11年 資料

果樹園施肥の基礎知識

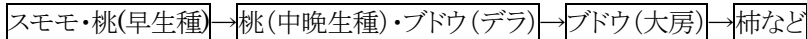
■ 施肥は目的や時期で3つに分けられる

- 元肥＝生育期間の大半を賄う基本的な施肥 － 窒素、リン酸、加里、苦土、石灰を主体に施用
- 追肥＝果実の肥大、着色増進を図る － 窒素と加里を主体に施用
- 礼肥＝樹勢の回復を図り、貯蔵養分を多くする － 速効性の窒素が主体

■ 元肥は適期に施す

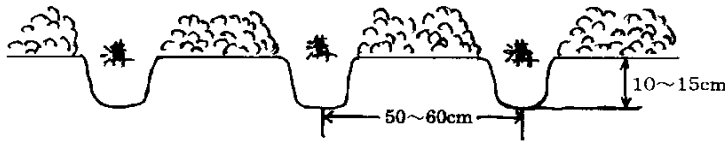
- 10月中旬～11月下旬を目安に施用
肥料の種類、土壌条件、降水量、地温により遅くなったり早くなったりする
PH 矯正の石灰(苦土石灰・白色生石灰)を9月末に施用しておく
有機質廉価肥料の『鶏糞』は礼肥の施用とする(8～9月に施肥)

- 果樹の種類別施用順序は

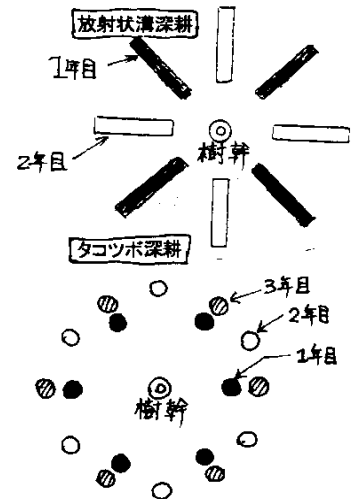


■ 施用は効果的な方法で行う

- 前面施肥＝土壌表面に施肥し、管理機などで軽く中耕する
- 溝状施肥＝樹幹に施用溝を掘り、施用後覆土する

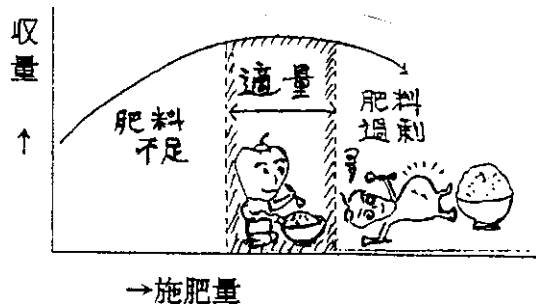


- タコツボ施肥＝樹幹を中心に 30cm 以上の深さにタコツボを数個堀施用する



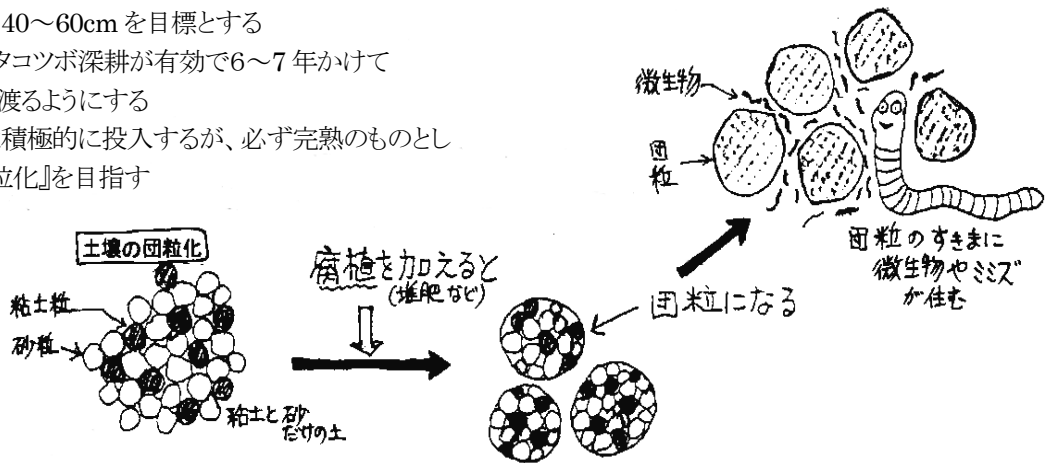
■ 施用量は総合的に判断する

- ① いつもの施用量を目安に、生育状況や品質・収量により加減する
- ② 土壌分析に基づき、養分の不足やバランスを調整する
- ③ 若樹の施肥目安として、2～3年生は成樹の10～30%(窒素主体)、4～5年生が60%程度とする



■ 深耕と有機物の投入を徹底する

- ① 耕の深さは 40～60cm を目標とする
- ② 成樹では、タコツボ深耕が有効で6～7年かけて全体に行き渡るようにする
- ③ 有機堆肥は積極的に投入するが、必ず完熟のものとし土壤の『団粒化』を目指す



■ その他注意項目

- ① 桃の花芽障害(落雷症)対策
 - ・ PH が高いアルカリ性の土壤で発生が多い
 - ・ PH6.5 以上の園では石灰質肥料の施用を控える
 - ・ 「ホー素」の施用は行わない
 - ・ 重症樹は「硫酸マンガン」の葉面散布(除袋前 0.5%で 2回)と、土壤施肥(成樹 1本当たり 2kg)を行う
- ② ブドウは苦土欠乏に注意
 - ・ 加里過剰の園では苦土欠乏が出やすい
 - ・ 加里の施用を少なくし、苦土を補給する
 - ・ PH の数値に準じて土壤改良肥を使い分ける

| PH6.0 以下 | PH6.1～6.5 | PH6.5 以上 |
|---------------|--|----------|
| 苦土石灰 白色生石灰 | 水酸化マグネシウム グリーンマグ 60(宇部マグ) 苦土石灰・生石灰 | 硫酸マグネシウム |

- ③ 桃の「線孔細菌病」対策
 - 1) 9月下旬～10月上旬に「IC ボルドー412」30倍液(150L/1袋)散布
特にひどい園では、9月中頃と10月の2回散布
 - 2) 花卉が見え始める頃までに(3月上旬)「IC ボルドー66D」25倍液(125L/1袋)散布
枝に『スプリングキャンカー』が見えるものは、切り落とす
 - 3) 4月下旬頃(落花直後)「バリダシン液剤」500倍液または「アグリマイシン 100」1000倍液を 1週間おきに2～3回集中散布(「アグリマイシン」はブドウにかからないよう注意すること)
 - 4) 6月以後病気の症状が見える場合は、「デラン・フロアブル」600倍を灰星病防除剤に替えて散布

以上